

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 6年次生 田中 郁壮

1. はじめに

平成 27 年 10 月 10 日(土)から 10 月 14 日(水)の 4 日間、本学国際交流基金の助成を受けて、ロッテルダム(オランダ)で開催された 14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology へ参加し、「Changes of caspase-3,-8, and -9 activities in hepatocytes on carbon tetrachloride, halothane, and sevoflurane-induced liver injury」の演題でポスター発表を行いました。



(写真 1) Rotterdam Centraal 駅

2. IATDMCT について

International Association of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT) は TDM と Clinical Toxicology に関連した学会です。Eric J.F. Franssen 会長の下、Congress は 2 年に 1 度開催されており、今回で 14 回目を迎え、15 回目の次回は日本の京都で開催される予定です。今回は平成 27 年 10 月 11 日(日)から 10 月 15 日(木)の 5 日間に渡り開催されました。参加国はアメリカ、オランダ、フランス、ドイツ、ベルギーなどの各国から、参加人数は 800 人以上、演題数は計 320(口頭発表 150。ポスター発表 170)でした。



(写真 2) IATDMCT 会場にて

3. 学会にて

学会では 10 月 11 日(日)の **Opening Ceremony** から参加しました。**Opening Ceremony** は日本の学会ではあまり見られないような活気がありました。プレゼンターの方は多くのジョークを取り込ませながら会場が一体となって笑い、まるで海外のバラエティー番組を見ているようでした。後に **Opening Reception** や **Wine and Cheese Reception**、**Coffee Break** など海外の参加者と交流する機会が多くありました。印象的だったことは、海外の参加者はとても友好的であったことです。全く知らない人でもすれ違い時に目が合えば必ず挨拶をし、シンポジウムでは席がとなりであれば自己紹介をして握手も交わしました。海外においては人と人との隔たりというものはないように感じました。



(写真 3) Opening Ceremony 開始前の様子

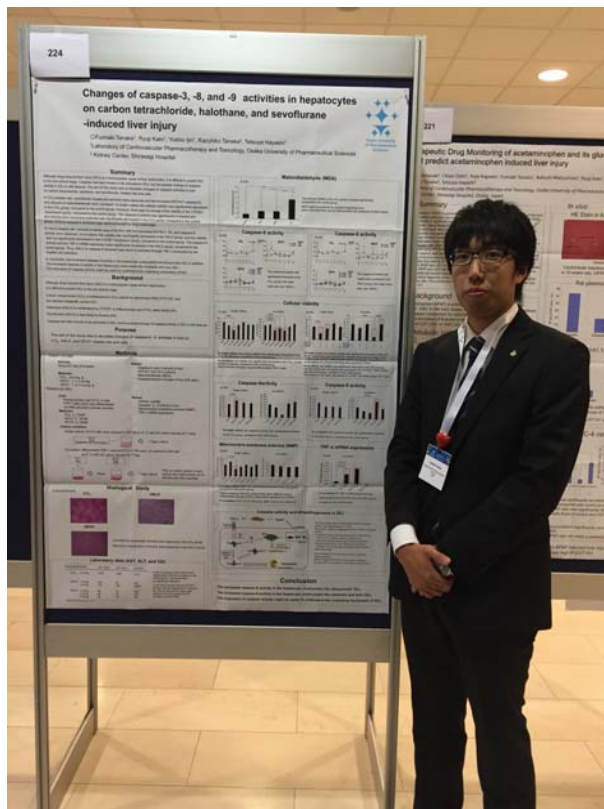


(写真 4) Coffee Break でのコーヒーと Roomboter stroopwafels

4. ポスター発表において

私は Poster Session VIII (13:20～14:15) での発表となっており、口頭発表 3 分、質疑応答 2 分でポスター発表を行いました。英語での発表となるため、事前に原稿を考えアクセント記号等調べ何度も発声練習した後に臨みました。海外の参加者に伝わるか心配な面もありましたが、発表に関しては参加者に伝えることができたように思います。しかし、質問の意図を正確に汲み取ることができなかったり、十分に相手に伝えることが

できないことがありました。その中でも、今後の課題等多くのコメントをいただくことができ有意義なポスター発表となりました。



(写真 5) ポスター発表会場にて

5. 終わりに

今回、国際交流基金の助成によりオランダのロッテルダムにて開催された 14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology においてポスター発表を行うことができ非常に貴重な体験をさせていただきました。日本の学会とは雰囲気が違い、また言語の壁を強く感じる学会ともなりました。ジェスチャーや簡単な英語だけで伝わることもありましたが、ポスター発表など専門の分野の発表においてはそれだけでは通用しませんでした。考えを持っているけれども相手に伝えることのできないもどかしさや、相手の意図していることを汲み取れない悔しさを十分に経験できたと思います。今後は海外の方との交流を積極的に持つことにより、より広い視点で多くのことを経験したいと思っています。今回、このような機会を設けて頂き感謝申し上げます。



(写真 6) 学会に参加された日本人の方々と
左から 5 人目：田中 一彦名誉教授、左から 2 人目：加藤 隆児講師
右から 3 人目：島崎 頼子さん、右から 4 人目：筆者